

**【大学・専攻等名】**

立命館大学・立命館グローバル・イノベーション研究推進機構

**【事業名】**

文化遺産と芸術作品を災害から防御するための若手研究者国際育成プログラム

**【事業概要】**

本学は、歴史都市京都に位置する研究機関として、文化遺産・芸術作品を研究対象とした歴史都市防災研究センターとアート・リサーチセンターを有している。文化遺産・芸術作品に対しては、精緻・繊細な解析技術と高度な文化理解力を必要とする。次世代を担う若手研究者がこれらの能力を身につけるためには、海外研究者との積極的交流と現場・現物重視の研究を展開し、実践の中で育つ仕組みづくりが必要である。

文化財の保護、芸術作品の保存、都市の防災に関する研究は、これまで個別の領域で独立的に研究が進められており、総合化はされてこなかった。本事業が目指すものは、文化遺産と芸術作品を災害から防御し保全を図ること、およびその人材の育成にあり、かかる3つの研究領域を密接に結びつける必要がある。この課題は極めて学際的であり、世界における唯一の観点での文化遺産保護の視点である。

本学と連携している海外パートナー機関は、全て **On-site**（現場）の研究プロジェクトを有している。例えば、ロンドン大学 **SOAS** は、大英博物館等と連携し、所蔵する大量の日本文化資料の現物に接しながら日本文化研究を展開している。また、**UNESCO (ICCRUM)** の文化遺産危機管理国際研修プログラムや、タマサート大学のユタヤ遺跡周辺地域における文化遺産保全政策プロジェクトも文化遺産保全の諸問題が実例として発生する中で展開されている **On-site** の研究プロジェクトである。

これら海外機関は、本事業の2拠点とはすでに学理的補完関係にあり、海外の **On-site** の研究プロジェクトにおける経験が、世界の文化遺産・芸術作品を保護する次世代の研究者養成にとって重要なパラダイムとなる。本事業を通して、若手研究者は国内外での自己研鑽を経験することが、文化遺産・芸術作品へのより深い理解と見識の広がりを得ることができる。**On-site** を数多く経験し、そこでの課題解決を重ねることで、世界に伍する若手研究者を育成する。

**【協力機関】**

なし

**【海外パートナー機関の名前・専攻等名及び所在地】**

ロンドン大学 **SOAS** <イギリス・ロンドン>  
国際連合教育科学文化機関 (**UNESCO**) <フランス・パリ>  
文化財保存修復研究国際センター (**ICCRUM**) <イタリア・ローマ>  
国際記念物遺跡会議 (**ICOMOS**) <フランス・パリ>  
サッサリ大学建築学部<イタリア・サルディーニャ島>  
タマサート大学建築計画学部<タイ・バンコク>  
シェフィールド大学公共政策研究センター・地理学部<イギリス・シェフィールド>  
ブリティッシュ・コロンビア大学 **MAGIC**<カナダ・バンクーバー>  
コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター<アメリカ・ニューヨーク州>  
ホノルル美術館<アメリカ・ハワイ州>  
ボストン美術館<アメリカ・マサチューセッツ州>  
国連国際防災戦略アジア太平洋事務所<タイ・バンコク>

【事業の概念図】



# 立命館大学 文化遺産と芸術作品を災害から防御するための 若手研究者国際育成プログラム

## 海外パートナー機関 —On-siteの研究機関—



京都を拠点とした  
国際的な文化遺産・芸術作品保全に向けた  
文理融合の視点を持つ研究者の育成



レベルに応じた若手研究者国際教育を  
世界水準のプロジェクト型研究拠点で実施

【本事業に関する問い合わせ先】

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学研究部人文社会リサーチオフィス 専任職員 高儀智和

(TEL) 075-466-3335 (FAX) 075-465-8245 (MAIL) t-takagi@st.ritsumei.ac.jp